

令和5年度第2回 山形市男女共同参画センター運営委員会会議録

日 時 令和6年2月29日（木）14時00分～

場 所 山形市男女共同参画センター5階

視聴覚室・研修室2

I 出席者

- 【委員】 委員長 佐藤慎也委員  
副委員長 横尾峰子委員  
委員 五十嵐健裕委員 石田一馬委員 奥野千秋委員  
高瀬謙治委員 廣谷小夜子委員 村山理香委員  
山川唯美委員
- 【事務局】 高橋男女共同参画センター次長（兼）所長  
遠藤男女共同参画センター副所長  
五十嵐男女共同参画センター参画推進係長  
板垣男女共同参画センター主幹  
大石男女共同参画センター主査
- 【書記】 山本男女共同参画センター運営事務員  
沼沢男女共同参画センター運営事務員

II 傍聴者 0名

III 会議

- 1 開 会 遠藤副所長
- 2 委員長あいさつ 佐藤委員長よりあいさつ
- 3 議事  
(1) 報告  
① 令和5年度事業実施状況について 事務局  
② 令和5年度公民連携による女性人材育成事業について 事務局  
③ 働きやすさ追求室との連携について 事務局  
(2) 協議  
第1号議案 令和6年度事業計画について 事務局  
第2号議案 令和6年度市民企画講座について 事務局
- 4 その他
- 5 閉 会 遠藤副所長

## 【審議経過】

### (1) 報告

①令和5年度事業実施状況について、事務局から資料に基づき説明があった。

## 【質疑応答】

- 委員 1ページ「女性人材育成事業のトークイベント」について、とても盛況ですごく充実した内容だっただろうと思われるが、前にも言ったが、平日開催ということで参加したくてもできない場合がある。そのような方むけに、後から見る事ができるアーカイブ配信があればいいと思うが、現状はどうか。  
3ページ「イクメン・カジメン・イクジイ講座」のうち3月24日開催の大石主査講師による「走り方講座」について教えていただきたい。  
7ページ「市民企画講座」について、私の所属するやまがたイグメン共和国でも開催したが、どこの団体も集客実績がとても多い。周知の工夫や、どのように実施していたか、事務局で知っていることがあれば共有していただきたい。
- 事務局 「女性人材育成事業トークイベント」の開催日時については、多くの方に参加していただきたいと思い決定したが、今年度は、企業の方が女性活躍を進めていただくための仕事の一環として参加していただきたかった。お休みの時間を割いてではなく、企業業務の中で、きちんと女性活躍を位置付けていただきたいという思いもあり、平日の日中の開催とさせていただいた。  
アーカイブ配信については、今年度は講演者の都合などもあり見送ったが、開催時間も含め、引き続き効果的な開催となるよう検討していきたい。  
「走り方講座」は男女共同参画センターと同じ建物の1階にある体育ホールで開催する。天気に左右されず、体育館で内履きを履いて走る練習をする予定でいる。内容については、講師の大石主査より話していただく。
- 事務局 このたびの講座の対象年齢は、体力レベル、能力に大きな差がでないよう年長から小学校3年生までとした。  
親子で、基本的な走り方を共通理解していただき、講座後、親子で走ろうとなった時にフィードバックできるような簡単な動きを取り入れ、また子どもが飽きないよう、様々な動作を加えて講座を進めていきたいと思っている。
- 事務局 「市民企画講座」の集客については、山形新聞のタウンウィークリーへ掲載していただいたものがあつたこと、また各団体で独自にお声がけを行っていただくなど、団体の方の力添えがあつた。また各団体に固有のお客様がいらっしゃる。感じられる。
- 委員 各講座の実績報告に、どこの会場で開催されたのかわかるような資料にしてはどうか。また、数だけの把握ではなく、参加者の感想、満足度などを調査し、次回の講座開催に向けて活用できればより良いものとなると思うがいかがか。
- 事務局 自主企画講座、市民企画講座の会場は男女共同参画センターを使用しており、女性人材育成事業については、人数規模によって別会場を使用した。  
参加者からの感想については、毎回アンケートをとっているもので、それを踏まえて今後とも次の事業に生かしていきたい。
- 委員 女性人材育成事業では、令和5年度のワークショップは山形市が主体で準備、運営をしてきたと聞いているが、苦慮した点などがあれば教えていただきたい。  
また、市民企画講座の映画上映について、見るに耐えない場面があつたが、何を目的とした男女共同参画だったのか説明していただきたい。

事務局 1つ目の質問の女性人材育成事業は令和4年度から実施し、今年度も継続している。昨年度は、㈱リディラバに運営の多くの部分を委託していたが、今年度は徐々に山形市に運営を移していくことを目的にしていたので、市の職員がグループワークのファシリテーターとなり運営してきた。市の職員は、研修の講師やファシリテートするという機会があまりなく、㈱リディラバの進め方を参考に少しずつコツを身に付けてきた。まだ勉強途中ではあるが、これまで積み重ねてきた経験を活かして、来年度以降も参加者と一緒に学ばせていただきながら続けていきたいと思っている。

2つ目の映画の件については、映画や芸術作品というのは、観る方によって評価が変わるものだと改めて感じている。内容によっては事前に説明が必要である旨の告知をする必要があると思ひ、その旨団体に伝えチラシの中で告知をしていただいた。市民企画講座は自主的な活動で、芸術作品については表現するための自由があるので、制限することがなかなか難しいが、男女共同参画の目的に資するかどうかという点を、今後とも市民企画講座に申込みをされた団体様にきちんと説明していきたい。

委員 市民企画講座については、事後アンケートなどをとっているのか。

事務局 アンケートはとっており、結果は団体様にもお渡ししている。

委員 配慮が必要な場合もあるので、今後、議論をしていく必要があると感じた。

委員 1月25日に行われた女性人材育成事業の活動発表会に参加した際、男性の育休について発表されていたグループの方と「山形では育児休業を取得する男性がまだまだ少ない」という話をした。経済的な余裕がないと男性の育児休業取得はハードルが高いのかなと感じたが、テレビコマーシャルで男性の育児休業取得促進を伝えているのを目にし、男性の意識も今後変わってくると思った。  
また、各種事業に、男性の参加者が増えてきたことが男女共同参画の意味があると感じている。全体的に、男女共同参画が非常に活性化しているように感じられ、今後も高齢者や大人が楽しめるような企画を期待している。

委員 5ページ、小中学生向け出前講座、事業所向け出前講座では、学校・事業所が取組を受け入れてくれるところが増えたということについて非常に喜ばしいことだと思う。今後については、予算的なものもあると思うが、推進していただきたい。

②令和5年度公民連携による女性人材育成事業について、事務局から資料に基づき説明があった。

#### 【質疑応答】

委員 企業版ふるさと納税を活用した事業の組み方やスキームについて、また、資生堂との関わりについて良かったと思う点、経緯など教えていただきたい。

事務局 先に、山形市と㈱リディラバとで包括連携協定を締結した。女性人材育成を行ううえで、山形市には人材育成のノウハウ、資金がないという課題に対し、㈱リディラバは、企業版ふるさと納税寄付者として、資生堂ジャパン㈱に打診したうえで事業の提案があり、それがご縁となった。

良かったと思う点は、女性活躍の先進的な取組のノウハウを伝授していただいたこと、また、資生堂からはビューティーに関する講座を提供していただいたことなど、多方面でご支援をいただいたことが、このような結果につながったと思う。

③働きやすさ追求室との連携について、事務局から説明があった。

当センター事業の女性人材育成事業が契機となり、女性活躍を推進するためには、企業の方との密接な対話が必要であること、また企業の方の理解が絶対に必要であるということ、そのためには、男性を含めた広い意味での働きやすさの向上が不可欠だという認識から、令和5年度から市の商工観光部内に働きやすさ追求室が設置された。

働きやすさ追求室は、ソフトバンクからDXに関する専門家1名と、包括連携協定を結んでいる第一生命から1名の出向者を含め組織を立ち上げた。

男女共同参画センターの事業においても、働きやすさ追求室と連携したことで企業DXと女性活躍推進を結び付けられ、女性人材育成事業のテーマの1つとしてDX推進を取り上げたことで働きやすさ追求室のDX推進官とワークショップ参加者との対話の機会を設けることができ、その中で、DXは決して難しいものではなく、身の回りのちょっとした業務改善にも有効であるとの気づきにもなった。

また、企業において、庶務、経理事務は女性が担っているということが多い中、例えば勤怠管理システムなどは業務削減にも繋がるのではないかという想定のもと、今後女性活躍推進に繋がる様々な事業を企画していきたいと思っている。

現在ファアラで実施している企業向け出前講座では令和4年度に比べて今年度は大幅に活用件数が伸びた。要因は対象事業に企業DX推進を加えたことなどが考えられる。また、女性人材育成事業のイベントをすることで、女性や若者の地元定着には大学生だけでなく高校生、中学生と早い段階でアプローチしていく必要があること、文系の学生は山形で就職先がないという思い込みがあることがわかった。その思い込みを払拭するために、女性人材育成事業から得られたことをヒントにし、市の組織の枠を超えて、男女共同参画センターと働きやすさ追求室が一緒になって女性活躍を見据えた働きやすさの追求に繋がるように、今後とも連携していきたい。

#### 【質疑応答】

特になし

#### (2) 協議

第1号議案 令和6年度事業計画について、事務局より資料に基づき説明があった。

#### 【質疑応答】

委員 公民連携による女性人材育成事業について、アーカイブ配信をぜひ計画していただきたい。

事務局 検討していきたい。

委員 様々な角度から配信できるか考え、企業を尊重しながらぜひ進めていただきたい。

第2号議案 令和6年度市民企画講座について、事務局より資料に基づき説明があった。

#### 【質疑応答】

委員 市民企画講座の改善提案が4つある。

1つ目が募集申請の際の様式データのデータ化だが、ホームページに様式を掲載したり、申請書様式データをメールで送るなどの対応があれば、もっと利用しやすくなると思う。

2つ目が、講座開催時の参加受付について、現在は電話での受付となっているが、

子育て世代、働く人の世代の対象者にとっても、また、様々な事由で事前連絡ができるようにするという点からも、メールやサイトなど様々な申込方法を可能にしていだければと思う。

講座案内を広報紙へ掲載する際の話だが、担当者の電話番号を必ず掲載することとなっているが、心理的に、個人の電話番号を掲載したくないと感じる方も多と思う。

講座の周知については、基本紙チラシで想定されているが、チラシデータをメールで送った場合、受け取る側も利便性も高まると思うので、発送先が希望する方法をとることがいいのではと思う。また、ラインなど SNS の活用も効果的だと思うので今後検討いただきたい。

3つ目が旅費について、講師の移動手段が自家用車、またはそれ以外でも柔軟に対応できるよう今後検討いただきたい。

4つ目がイベント参加者のアンケートについてだが、これも現在は紙ベースとなっている。転記、集約のことを考えると、二次元コードやアンケートフォームのアンケートをファールで作成し、希望する団体へ提供すれば団体は助かると思う。

事務局 省力化や利益性向上も含めたデジタル化に向けての貴重なご意見をいただいたと思う。今後は紙ではなく、データでやり取りできるものはその方向で進めていく。アンケートフォームや広報への掲載については、ご提案いただいた趣旨を踏まえて検討していきたい。

なお、ラインでの周知については、市では100人以上のイベントが対象との制約があるため、ホームページ、Facebook を活用し周知していく。

委員 3ページの市民企画講座日程の中に市民企画講座説明会を開くとありますが、出席した団体のみ応募資格があるということではなく、任意なのか。

事務局 ご出席いただかなくてもご応募いただける。詳しく聞きたいという方に出席いただければと考えている。

第1号議案、第2号議案について（案）のとおり承認された

#### 4 その他

委員 先日、議会の一般傍聴があり傍聴してきたが女性の部長が少ないと感じた。またアンコンシャスバイアスについて、小学生の教材でランドセルに好きな色を塗らせると、男の子だから青色、女の子だからピンクという思い込みがまだ残っている。それについてどう考えているか教えていただきたい。

事務局 現在は部長職に就く年代の女性の絶対数が少ない。ただ、今後は女性職員の割合が増えてくるので、長い目で見守っていただければと思う。アンコンシャスバイアスについては、まだまだ浸透していないと感じるので、今後も様々な形で伝えていく機会を作っていきたいと思う。

そのほか、事務局より男女共同参画センター運営委員会委員の任期が満了になることについて謝辞を述べた

#### 5 閉会